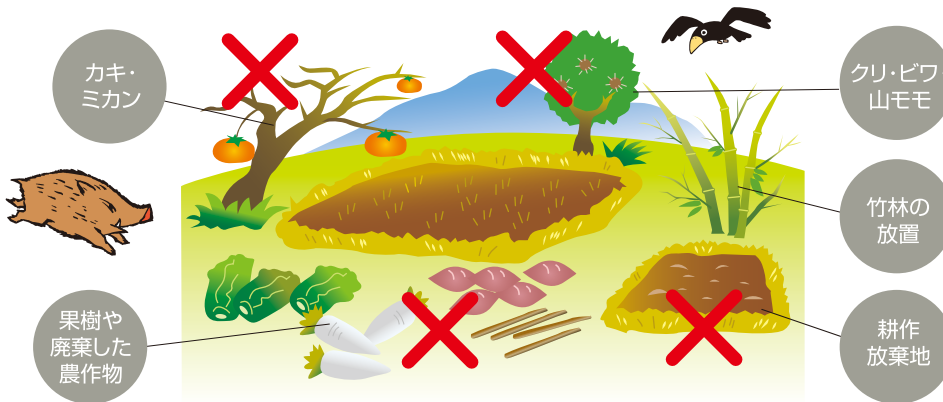




鳥獣被害の対策に取り組みましょう!



① 餌付けをしないように
気を付けましょう

当JA管内では、イノシシ、シカ、カラスなどの野生動物による農作物の被害が発生しています。野生動物にとって山に餌が少なくなる冬場に、被害を減らせるように対策をしましょう。

野生動物の餌となるものを管理・除去しましょう。右記の点を確認して、対策しましょう。

- 【収穫していないままの果樹】
放置せず、管理できないものは地域で話し合いの上伐採しましょう。
- 【ハクサイやキャベツの外葉、虫に食べられた実などの収穫残渣】
土にすき込んだり、コンポストに入れて堆肥化するなどの処分をしましょう。
- 【稲刈り後に生えてくるひこばえ】
早めに耕耘しましょう。

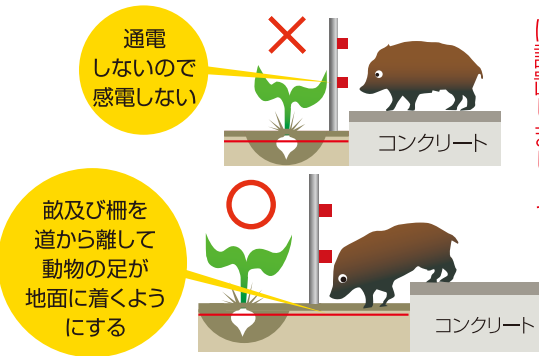
柵の設置ポイント

● 設置後は柵が空いている箇所や侵入された跡がないか定期的に見回り、点検をしましょう。
● 柵は、作物から1mほど外側に設置しましょう。動物が頭や足を突っ込んで、も届かないようにしましょう。

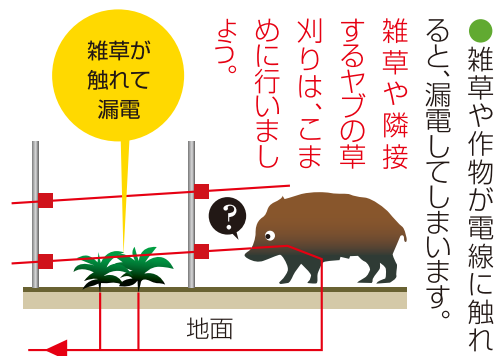
	物理柵 障壁によって侵入を防ぐ	心理柵 学習効果によって侵入を防ぐ
柵の種類	ワイヤーメッシュ柵、トタン板、金網柵、ネット柵	電気柵
特徴	設置は大変ですが、電気柵ほどこまめな管理が必要ありません。	設置が簡単で価格も安価ですが、電圧の維持と、対象動物に合わせた設置が必要です。

野生動物を農地に近づけないためには、防護柵の設置が有効です。

② 防護柵の設置について



● 電気柵の外側が、コンクリートやアスファルトで舗装されていると、通電しません。電線の下が地面になるように設置しましょう。



③ 電気柵の設置ポイント

● 雑草や作物が電線に触れると、漏電してしまいます。

▼対象の動物ごとの段数、間隔

	電線の段数	電線の間隔	地面と最下線との間隔
イノシシ	2段程度	20cm程度	15~20cm
シカ	4段以上	25cm程度	25cm以下



● 支柱のガイシが内側に向いていると、電線に触れる前に支柱が押し倒され侵入を許すこととなります。ガイシは外側に設置しましょう。

